（別紙３）　令和　6　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4472300591		
法人名	有限会社後藤企画		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	大分県由布市挾間町古野186番地1		
自己評価作成日	令和7年2月13日	評価結果市町村受理日	令和7年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true&PrefCd=44

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市上田町三丁目3番4－110号　チュリス古国府壱番館　1F
訪問調査日	令和7年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者の暮らしの意向や認知症の症状に寄り添えるような対応に心掛け、一人ひとりに密接な関係性を築いていくことでよりアットホームな空間作りに繋がっている。個人差はあるが、認知症のレベルに応じて残存機能を活かすような活動を日常生活に取り入れることも重視している。コロナ禍を経て感染症に対してのより一層な予防や対策を講じ、施設内に留まらず屋外でも四季を感じられるように季節の花や家庭菜園も作り新鮮な話題のいい刺激となっている。また、隣に小学校や幼稚園があるため、行事を共同で開催するといった交流が出来ている。外出やドライブを多く取り入れている事も、利用者の方々から好評を得ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

利用者・家族との関係性を大切に、安心した生活を提供できるよう、理念をもとに職員の自己評価（目標）に掲げて支援に取り組んでいます。職員間でも日々支援の実現について振り返り、サービスの向上へ繋がることを心掛け利用者の生活状況について職員で意見を出し合い申し送りノートに記載し、情報共有を行っています。ホールでは利用者と職員の笑い声が聞こえ、穏やかな生活が出来ています。利用者の希望にそって近所への散歩・小学生登下校の見送り・地域行事の参加を通して地域住民の方々との交流を大切に支援しています。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に6項目のうちの1つを選び唱和している。読み上げるだけで終わらないよう理念を心にとめて対応している。	法人理念「家庭的な生活環境」の提供をもとに、6項目の介護理念をケアの規範とする中で、職員の自己評価(目標)を掲げており、日々の生活の中で理念の実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前のように地域(自治区)の学校や幼稚園との交流が出来るようになった。	今年度は地域のお祭りでお神輿がホームに寄ったり、隣接する幼稚園児との交流や事業所行事の協力、登下校時の子どもとの挨拶等地域交流が再開されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染症の規制緩和に伴い、少しずつ活かす方向にある。お便りでの発信を継続している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス内容や利用者の現状、インシデント報告等を開示することや、参加者から得た体験談などを活かすことでサービスの向上に努めている。	地区代表・民生委員・地域包括支援センター・市担当者・家族代表等のメンバーで、2ヶ月毎に会議を開催しています。利用者の現状や活動報告(ビデオ)・ヒヤリハット報告後意見交換を行い、出された意見はサービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上に関わる事やサービス上の主に問題点を電話・メール・窓口にて相談、協力できている。	運営推進会議の参加や質問・相談等は役場に出向いて行い丁寧に回答を得ており、情報の共有に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な委員会の開催で具体的な行為を理解し研修で共有している。施錠やスピーチロックも意識しており、身体拘束は行っていない。	身体拘束廃止や虐待防止については、年2回の研修及び毎月の会議等で資料に基づく勉強会を開催し、日常の中でも言葉や態度による虐待について職員全員が理解しケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内で委員会を立ち上げ勉強・講習会を開いており、決して虐待のないよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は制度について学ぶ機会を持っており、スタッフは自ら情報を得るよう心がけている。活用は出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、必ず契約書と重要事項説明書をお互い見ながら説明をし、不明な点を明確にしておくとともに、契約後も不具合があれば電話や面会時に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に、利用者と家族に参加していただき、意見・要望を述べてもらいなるべく迅速に対応できるように努めている。	運営推進会議の参加、面会時や電話の際に意見・要望を尋ね情報提供や家族の意見を把握し、出来るだけ応えながら、良い関係継続に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで各職員からの意見等を聞き改善・反映している。	毎月のミーテングや日常の業務の中で、職員が意見や提案を言いやすい環境を整えています。外部研修や資格取得等職員を育てる取り組みに力を入れています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設設備や業務内容、職員配置など不具合があった場合には、出来るだけ早く対応するようにしている。管理者も職員の業務や悩みの相談にのり働きやすい職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	徐々にではあるが、外部研修を取り入れられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナにより機会が減っていたが少しずつ外部研修などで同業者との交流を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、安心・安全な生活を送れるよう困難事項を早期に対応し、利用者のニーズを十分に聞き信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用を始めるにあたり利用者・家族の意見を十分に聞きニーズを引き出すよう努力を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況を把握し、何が必要か医療機関等の意見を参考にし、支援とサービスを取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の個性や生活歴を大切にしご自分が出来ることは可能な限り本人にして頂き出来ないことはサポート介助を行う。共に寄り添ったくらしを行える信頼関係作りに努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が安心して生活できるよう家族に近況報告を行い、協力を得て本人をサポートできる関係づくりに努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の生活歴を傾聴し、本人の希望に沿った外出支援や友人・知人の面会を行い馴染みの人や場所が途切れないような関係を続けられるよう積極的な支援に努力している。	利用者が家族や知人と交流できるよう、感染対策に配慮しながら面会や外出等行って頂いています。家族の協力を得ながら馴染みの場所に出かける支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、共同生活に支障がないよう日々努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても必要であれば相談支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や思いを傾聴し反映することで、可能な限り近づいた生活ができるよう努めている。困難な場合は家族に支援をお願いして本人本位で検討を行っている。	自発的に思いや意向を発せられる利用者が多い中、ニーズに合った支援が提供出来るようサービス状況等を、職員間で検討しています。意思疎通困難な利用者を把握する意識を高く持って、支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴や今までの暮らし方を把握し生活環境を整える。安心してその人らしい生活が送れるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの心身状態や小さな変化に気づき、その度に職員間で情報を共有し、サービス記録に記入するなど行い、現状把握に努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者が一斉に集まることは少ないが、現状に応じた意見を求め介護計画に反映させている。	利用者の思いを汲み取りニーズを導き出し、家族や多職種連携のもと検討し、目標を立てサービスの達成状況等、担当職員を交えて3ヶ月毎に見直し・モニタリングを重ね介護計画を作成し、支援しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録シートやインシデント報告などには、普遍的な事象であっても詳細を明白にした記録をし、職員間で申し送りノートにて情報を共有しながら実践や介護計画の見直しなどに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりに合ったサービスの提供を心掛けている。マニュアル等に束縛されずに柔軟性を持って個々のご希望に沿ったサービスの提供を心掛けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりのこれまでの暮らしを丁寧に聞き取り地域の資源を把握し、馴染みの会や以前の職場との関係性を続けられることでそれぞれの利用者の生きがいを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と関係を築き受診、定期回診、夜間の急変時の対応をして頂き医療連携に取り組んでいる。	事業所のかかりつけ医による、2週間に一度の定期回診と必要が生じた時は、職員による通院を行っており、体調変化に24時間対応できるよう、家族と話し合い医療連携に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職も看護職も関係なく常に利用者の変動に気づくよう努力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は安心して治療に専念できるよう密に情報交換し、早期に退院できるよう常に病院関係者との関係づくりに努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に利用者、家族を含めて重度化や終末期について説明し重篤時にはかかりつけ医、家族等に協議、方針を共有している。しかし、意見の相違の統一は難しいと感じている。	入所時、終末期における事業所で出来る看取り指針を説明し、利用者が重度化した時の医療的支援について、かかりつけ医と家族と話し合い対応に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	講習などの学習の機会はあるが実践力が身についていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、消防署・消防団等の協力の元協力体制を築くよう努めている。	避難訓練は年2回、地震対応や火災時の避難誘導等、安全面を重視して行っています。地元の消防団との協力体制に努めています。一時的避難場所も、すぐそばに安全な屋根付きのスペースを確保しています。	災害時の備蓄品は、食料・水等応急対策物資として、3日分との事ですが、防災備蓄品のチェックリストを作成する事により、非常食を買い足して、日常的に食べる「ローリングストック」等も、訓練の一部として行う事は良い取り組みになると思います。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しその方の性格・生活等を把握し誇りやプライバシーを損なわない言葉かけや対応に努力している。	利用者との向き合い方を、1人ひとりの特性を尊重し、生活歴や家族との関係等を充分把握した上で、プライバシー遵守をもとに、より良い支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が気兼ねなく希望や思いを発言できるよう働きかけ、自己決定が出来るよう努めているが一部の利用者には、なかなか希望に沿った支援が難しい場面がある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に沿ったペースでの生活支援を心掛けているが、全利用者がその人らしい暮らしを送れてはいない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切にし、服装や着こなしは自分自身で選んでいただき身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。希望される利用者にはヘアカラーも行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備片付け等一緒に作業する機会が増えている。また、畑で自家製の野菜を育てていたり普段とは違った食事を楽しんでいただくために、利用者の希望を取り入れ共に調理する食事会を開催している。	食事の後片付けを手伝って頂いたり、畑の大根やさつま芋・春菊等、育てた物を使った食事会を、月に一度行っています。たこ焼きパーティーや餃子作り、おすし等も利用者の希望を聞いて、一緒に作っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態や体重などから栄養状態を把握し、その都度必要な栄養・水分が摂取できるよう心掛けている。また、状態によってはやわらか食やムース食の取り入れも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じて一部介助や声かけを行っている。出来ない方には職員が介助を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人記録や排泄シートにて確認把握を行い、排泄パターンや習慣を共有し自立に向けた支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間を見て声かけし誘導をしています。自力排便の難しい時は、ヨーグルトやオリゴ糖等の摂取や医師による薬の投与で対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘改善の運動はあまり出来ていないが、ヨーグルトやオリゴ糖を取り入れるよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回程度の入浴を設けており、その日の体調や本人の希望を考慮し入浴する日や時間等の環境を整備している。	基本週に2回程度、入浴日を設けていますが体調や本人の希望に沿って、気持ちよく入浴を楽しんで頂けるよう、入浴支援をしています。入浴拒否の利用者はいません。	新しくリフォームされた浴室は、広く、機能面も良く設定されていますので、安全・快適に利用者に楽しんで頂ける場所となりました。寝たきりの利用者への入浴支援も可能だと期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や現在の状態を把握し安心して休めるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院や薬局と連携して職員一人ひとりが利用者の病状を理解し内服薬を把握するようにしている。誤薬防止のため職員が声出しでのダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクではカラオケ・ボール投げ・塗り絵・外気浴など個々のレベルに合った活動を行い、季節によっては外出しドライブに行ったり散歩したりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一部ではあるが気分転換や希望に沿った外出の支援としてその日に近隣へ予定にないドライブにも行っている。	外出もかなり自由に行えるようになり、近隣の花の名所や公園・利用者の希望する道の駅等に、ドライブによく行けるようになり、楽しい外出支援が出来ています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者は、お金の所持をしている。しかし、使用する支援には至っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者・家族からの希望があった場合は、その扱いは自由にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく換気するために解放している。又玄関先に季節ごとの野菜や花などを作っている。そして、清潔に心掛け大掃除やリフォームを行いより良くなった。	利用者が長時間過ごす共用空間では、好きな事が自由に出来るよう、ソファやテレビの配置を工夫し、利用者一人ひとりの思いを尊重して、テーブルやソファを、一人専用として、使って頂けるよう支援に努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	花を好きな方も多く、四季折々の花を楽しんでもらえるように庭にテーブル・椅子を配置し、お茶を飲みながら楽しんでいる。また、ホール後方にもソファーとテレビを設置しゆったり過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や思い出のある品などを居室に持ち込んで居心地の良い空間作りをしている。	入所時、利用者の使い慣れた馴染みの物を、家族と話し合い安全面に配慮した上で持ち込み、居心地良い自由な居室となるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に応じた手摺やスロープを設置することで自身で安全に移動できる支援やカウンターキッチンを活かすことで食事の準備等に関わりやすいよう工夫をしている。		